



特別寄稿

『コミュニティ・スクールに期待すること』

宇部市教育委員会
コミュニティスクール推進課 課長 水津 正実

宇部市では、子どもたちが「夢」と「志」をもち、ともに学び支え合い、「絆」を深めながら、ふるさと宇部を愛し未来を切り拓いていく教育を推進しています。

そのためには、行政と学校・家庭・地域がそれぞれ役割を担い、連携して、安心・安全で充実した教育環境の整備や、人と人が学び合い支え合う地域社会を形成し、地域ぐるみで次代を担う子どもたちをたくましく育てていく必要があります。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域のみなさんが力を合わせて、学校運営に取り組む事が可能になる「地域とともにある学校」への転換を図る仕組みです。



【学校運営協議会の様子】

保護者や地域のみなさん等で構成する「学校運営協議会」での話し合いを通じて、目標やビジョンを共有し、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちを育みます。

コミュニティ・スクールを核として、学校と地域のつながりが深まることで、学校支援が充実し、より質の高い学校運営が行われるとともに、子どもたちは、様々な形で地域づくりに貢献することにより、ふるさとを愛する心を育てていきます。

平成25年度に市内の全ての公立小中学校に学校運営協議会を設置して以来、各学校では、学習支援や安全確保、ふるさとの保全活動や地域住民による授業参加など、地域の特色を生かした様々な取組が行われ、内容も充実してきました。

今後は、学校が「地域の人が集う場」「地域の人力を発揮する場」となることで、子どもと大人だけでなく、大人と大人をつなぐ役割を果たし、コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティ(学校を核とした地域づくり)へと発展させていくことが必要であると考えています。

学校という場を大人の学び場にしていくことで、学校にたくさんの地域の人が集い、つながり、地域の大人同士の絆が深まることにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながっていくことを期待しています。



お宅の生ごみ どうしていますか?

家庭から排出される「燃やせるごみ」に含まれる生ごみの割合は、約40%(うべ環境コミュニティ ごみ減量調査より H31.3)です。

生ごみの排出量が減ると、焼却場でのごみの燃焼効率の向上等、温室効果ガスCO₂(二酸化炭素)削減につながります。

そこで家庭で出来る生ごみ処理「段ボールコンポスト」を紹介します。

一段ボールコンポストとは

段ボール箱を利用した生ごみ処理容器

段ボールに「ピートモス」と「もみ殻くん炭」、生ごみを入れて、微生物の力で生ごみを分解して堆肥が作れます。

出来上がった良質な肥料は、家庭菜園で野菜や花の栽培に利用できます。



段ボールコンポストなら、家庭で手軽に生ごみリサイクルができるよ。



いいこといっぱい!

(宇部市市民環境部廃棄物対策課 HPより)

ごみが軽くなりごみ出しが楽に

収集日を待たずに処理できるから臭いが気にならない

家族で取り組める 安心安全肥料でおいしい野菜が作れる

環境に優しい循環でエコライフ始めませんか?

※段ボールコンポストの使い方など、宇部市市民環境部廃棄物対策課のホームページに詳しく掲載されています※

まちなかおそうじ隊募集!

5月26日(日)
15:00~
学習館前に集合
(道具は不要)

学習館では、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケード、塩田川、中川等を掃除しています。おそうじの後はお茶会でホッとひと息♪

【まちなか環境学習館 電話0836-39-8110】

宇部市環境学習ポータルサイト

「うべっくる」



うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com> [kuru.com](http://www.kuru.com)

環境活動団体紹介コーナー

「ヒヌマイトトンボと保護保全活動」

山口むしの会 管 哲郎

ヒヌマイトトンボは、環境省の絶滅危惧Ⅰ類、山口県の絶滅危惧ⅠA類に指定されている体長わずか3cmほどのきゃしゃなイトトンボです。宇部では5月下旬より羽化が始まって、7月下旬までおよそ2か月間見られます。成虫の最盛期は6月です。

1994年に宇部小野田湾岸道路の建設工事が始まり、1995年に地元の原隆さんが妻先開作の汽水域でヒヌマイトトンボを発見し、山口県はこのトンボの保護のために2001年に生息代替地を建設しました。しかし、残念ながらせっかくの代替地も数年後には機能しなくなり、「山口むしの会」などの協力のもと、「第2回厚南地区ヒヌマイトトンボ対策検討委員会」を発足させ、再び代替地を全面的に見直し、生息代替地を2013年6月より3年がかりで造成し完成させました。

山口県土木建築事務所は湾岸道路建設や河川改修、高潮対策など一連の工事が終了したことに伴い、代替地の維持管理をやめ、宇部市生物多様性応援団や関連団体による自主的な保護保全活動にゆだねることになり、2016年春より代替地の草刈りが始まりました。



ヒヌマイトトンボ同色型
交尾連結(上:♂・下:♀)

2016年6月 造成終了後の代替地



2017年には環境政策課と市民団体が話し合い、「宇部自然保護協会」が中心になり、「山口むしの会」のアドバイスも受けながら色々な保護活動が行われています。

2018年は降雨量が少なく初夏には多くいたヒヌマイトトンボも秋の調査ではヤゴが非常に減少していました。2019年度よりは環境をさらに守るべく、いろんな施策を考え実行に移してゆかねばなりません。

ヒヌマイトトンボ保護区は厚南地区の主要排水河川である中川河口に位置する人工的な汽水域であり、どうしても災害対策が最優先されるため、ヒヌマイトトンボ保護は二の次となり、思うような保護対策がとれない状況にあり、難しい保護対策が強いられます。

うべ環境コミュニティー会員



コラム

まちなかエコ市場について



まちなかエコ市場は、第1回目が平成23年9月3日(土)に開催され、これまで平成30年10月27日(土)の第28回まで、毎年2回～4回開催され、すっかり地域に根付いた催しとなっています。開催主旨としては、まちなかのにぎわい創出、中山間地域とまちなか交流、環境意識の啓発が主なものです。

開催内容としては、環境関連の展示やエコ教室、食品販売、アクションなどが行われてきました。その中で、新鮮野菜を軽トラックで販売する「軽トラ市」が平成26年3月21日(金)開催の第11回から、また子育て世代に人気の「子育てグッズリユース広場・おもちゃ病院」が平成26年9月13日(日)開催の第13回から毎回開催されるようになりました。

平成29年度には、開催場所の中央街区公園がリニューアルされるなど周辺環境も変わってきました。

エコ市場も、新たに整備された「しばふ広場」や「多世代交流スペース」を利用して開催場所を広げたり、よりエコを意識した内容とするために、これまでブースで行っていたエコ教室を新しくなったステージで行ったりと内容の充実に努めています。



エコ市場開催中の様子

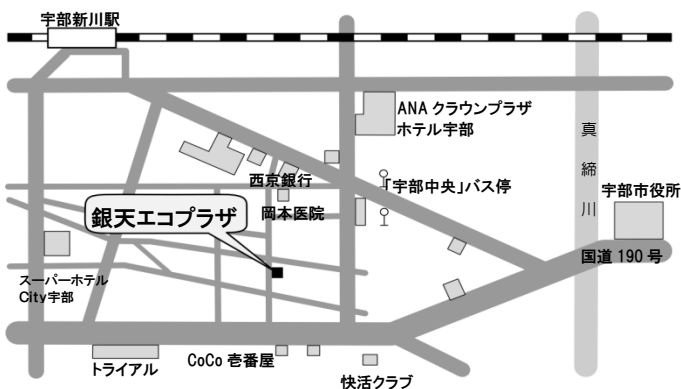
また、高校生や大学生の方々にも出展や交通整理、ステージの司会など、様々な分野でご協力いただき、エコ市場が学生のみならずの社会参加の場にもなっています。

まちなかエコ市場は、このような変化の中、人々との繋がりを大切にしながら、多くのみなさまにご来場いただけますよう、今後につながる企画を模索してまいります。

第29回まちなかエコ市場は、

6月22日(土)10:00～15:00中央街区公園で
開催いたします。みなさまのご来場をお待ちしております。

宇部市まちなか環境学習館 事務長 中野 芳和



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekankyocom@gmail.com

開館時間 9時～21時 **HPアドレス**; <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)